

第56回県政に関する世論調査の活用について

平成30年9月から10月にかけて実施した、第56回県政に関する世論調査について、県の諸施策・事業等へ活用した例をご紹介します。

(1) 防災に関する取組

「県政への要望」において、県に特に力を入れてほしいこととして「災害から県民を守る」が45.8%で1位に、大地震や風水害への不安を感じている人の割合は91.2%と高くなっています。

また、水や食料を「備蓄している」が83.1%と前回調査（第54回）の77.1%から6ポイント上昇し、災害伝言板や災害用伝言ダイヤルについては、「知っている」とした方が77.5%と、前回調査の56.4%から約21ポイントも大きく上昇しました。

これらは、調査直前に起きた平成30年7月豪雨により、県民の災害への関心が高まったためと思われます。

県では、地域防災力の向上を図るため、今年4月に開校した消防学校において、地域の自主防災組織や企業の自衛防災組織、市町村職員などを対象に、講義、図上演習、実技訓練など様々な研修を開始するなど、研修体制を強化しました。

また、このたびの台風15号をはじめとする一連の災害に対し、復旧・復興に関する指針を策定し、県民の防災意識の醸成など自助・共助の取組の推進や、検証を踏まえた地域防災計画の見直しなど防災対策の強化を図り、災害に強い千葉県づくりに取り組んでまいります。

(2) 健康づくりに取り組むための環境

自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うかについて聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」は、前回調査（第54回）の50.9%から7ポイント上昇し57.9%となり、千葉県総合計画「次世代への飛躍輝け！ちば元気プラン」（平成29年度～令和2年度）の目標値である60.0%まで2.1ポイントとなりました。

そこで、目標達成に向け、生活習慣病の予防を目的とした健康ちば推進県民大会を開催し、健康づくりに関する県民の意識を高め、運動・栄養等に関する知識の普及を図りました。

また、がん予防や早期発見、検診の重要性を啓発するため、9月のがん征圧月間、10月の乳がん月間を中心に、がん予防展・がん講演会、ピンクリボンキャンペーン等を開催し、がん検診受診率の向上に取り組んでおります。



健康ちば推進県民大会の様子

(3) 環境保全の取組

冷暖房の設定温度を控えめにしている人の割合は81.8%で、前回調査(第54回)の85.3%から3.5ポイント低下しましたが、その要因として平成30年夏の記録的猛暑の影響が考えられます。

そこで、エネルギー消費量削減に直結する取組として、家庭の消費電力の中で大きな割合を占めている照明器具について、LEDへの買替えを促す「我が家の照明LED化キャンペーン」を今年度から新たに実施し、県内事業者へのチラシ配布や主要郵便局へのポスター掲示等の各種広報に加え、木更津、成田、君津で計3回のPRイベントを行いました。

また、平成31年3月に策定した「千葉県環境基本計画(令和元年度～令和10年度)」の成果指標である「環境に配慮した行動」を心掛けている人の割合は79.7%と約8割であったことをふまえ、令和10年度の目標値90.0%の達成に向け、エコメッセをはじめとしたイベント等を通じて、幅広い世代への普及啓発に引き続き取り組んでいきます。

(4) 魅力ある観光地域づくりに関する取組

観光地の公衆トイレが汚いことに不満のある人の割合は、17.2%で、前回調査(第54回)と同様、不満な点の1位となっています。

県ではこれまで、市町村や民間事業者等が実施する観光客向け公衆トイレの整備に対し助成を行っており、令和元年7月末までに計254か所を整備したところです。

今年度からは、トイレ美化の取組として、トイレ管理者等を対象に、清潔なトイレの維持管理(C:クリーン)に加えて、季節の花を飾るなど、プラスワンとなるおもてなしを促進する「千葉県トイレクリーン『C+1』セミナー」を県内各地で実施しています。

本県を訪れる観光客の方々が快適に県内観光を楽しんでいただけるよう、引き続きトイレの整備を進めるとともに、トイレ美化に対する意識の向上に取り組んでいきます。



LED化キャンペーンイベントの様子



トイレクリーン『C+1』セミナーにおける
実地研修の様子